

# セグメント情報 / 貸出金

Jimoto Holdings

## セグメント情報

### 1. 報告セグメントの概要

(単位：百万円)

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入り可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に発行しているものであります。

当社グループは、主として国内において、さらやが銀行及び仙台銀行が行う銀行業務を中心に、連結子会社等においてリース業務、クレジットカード業務、コンサルティング業務及びベンチャーキャピタル業務並びに事務受託業務等を行っております。

当社グループは、銀行業務は「銀行業」を報告セグメントに、リース業務は「リース業」を報告セグメントとしております。また、連結子会社等が行うクレジットカード業務、コンサルティング業務及びベンチャーキャピタル業務並びに事務受託業務等は、その金額の全体に対する重要性を考慮し「その他」に含めております。「銀行業」は主に預金業務、貸出業務、為替業務、有価証券投資業務等を行っており、「リース業」は、主に機械・器具備品のリース取引を行っております。

### 2. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は経常利益であります。また、セグメント間の内部経常収益は、第三者間取引価格に基づいております。

### 3. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：百万円)

	2021年3月期 (2020年4月1日から 2021年3月31日まで)						
	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	37,187	6,177	43,365	838	44,203	△ 114	44,089
セグメント間の内部経常収益	226	58	285	451	736	△ 736	—
計	37,414	6,236	43,650	1,289	44,940	△ 850	44,089
セグメント利益又は損失(△)	△ 2,576	361	△ 2,214	135	△ 2,079	△ 196	△ 2,275
セグメント資産	2,649,972	17,934	2,667,907	39,072	2,706,980	△ 43,048	2,663,931
セグメント負債	2,538,482	10,989	2,549,472	36,933	2,586,405	△ 38,898	2,547,506
その他の項目							
減価償却費	1,357	8	1,365	17	1,382	—	1,382
資金運用収益	28,056	0	28,057	138	28,195	△ 179	28,016
資金調達費用	334	79	414	10	425	△ 32	392
持分法投資利益	—	—	—	30	30	—	30
持分法適用会社への投資額	—	—	—	145	145	—	145
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,832	12	1,845	9	1,855	—	1,855

(注) 1. 一般企業の売上高、受取利息、支払利息に代えて、それぞれ経常収益、資金運用収益、資金調達費用を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業、コンサルティング業、ベンチャーキャピタル業及び事務受託業務等を含んでおります。

3. 調整額は以下のとおりです。

- 外部顧客に対する経常収益の調整額△114百万円は、「銀行業」及び「その他」の貸倒引当金戻入額の調整です。
- セグメント利益又は損失の調整額△196百万円は、セグメント間消去△148百万円及びのれんの償却△48百万円等です。
- セグメント資産の調整額△43,048百万円は、セグメント間消去です。
- セグメント負債の調整額△38,898百万円は、セグメント間消去です。
- 資金運用収益の調整額△179百万円は、セグメント間消去です。
- 資金調達費用の調整額△32百万円は、セグメント間消去です。

4. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

	2022年3月期 (2021年4月1日から 2022年3月31日まで)						
	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	32,889	6,616	39,505	747	40,253	△ 45	40,207
セグメント間の内部経常収益	261	55	317	465	782	△ 782	—
計	33,150	6,672	39,822	1,213	41,036	△ 828	40,207
セグメント利益	4,231	307	4,538	132	4,671	△ 184	4,486
セグメント資産	2,683,979	19,420	2,703,399	35,103	2,738,503	△ 39,840	2,698,662
セグメント負債	2,588,218	12,147	2,600,366	33,056	2,633,422	△ 35,657	2,597,764
その他の項目							
減価償却費	1,323	9	1,333	18	1,352	—	1,352
資金運用収益	26,497	0	26,498	115	26,614	△ 212	26,401
資金調達費用	230	75	306	10	316	△ 29	286
持分法投資利益	—	—	—	21	21	—	21
持分法適用会社への投資額	—	—	—	139	139	—	139
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	982	2	984	5	990	—	990

(注) 1. 一般企業の売上高、受取利息、支払利息に代えて、それぞれ経常収益、資金運用収益、資金調達費用を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業、コンサルティング業、ベンチャーキャピタル業及び事務受託業務等を含んでおります。

3. 調整額は以下のとおりです。

- 外部顧客に対する経常収益の調整額△45百万円は、「銀行業」及び「その他」の貸倒引当金戻入額の調整です。
- セグメント利益の調整額△184百万円は、セグメント間消去等です。
- セグメント資産の調整額△39,840百万円は、セグメント間消去です。
- セグメント負債の調整額△35,657百万円は、セグメント間消去です。
- 資金運用収益の調整額△212百万円は、セグメント間消去です。
- 資金調達費用の調整額△29百万円は、セグメント間消去です。

4. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 銀行法及び再生法に基づく債権の額 (連結)

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,496	4,424
危険債権	35,461	40,151
要管理債権	5,942	7,695
三月以上延滞債権	—	—
貸出条件緩和債権	5,942	7,695
計	45,900	52,270
正常債権	1,846,297	1,872,144
合計	1,892,198	1,924,415

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、上記1に掲げるもの以外の債権であります。
3. 要管理債権とは、三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権であります。
4. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、上記1及び2に掲げる貸出金以外のものであります。
5. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、上記1から4に掲げる貸出金以外のものであります。
6. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に対して問題がないものとして、上記1から5に掲げる債権以外のものに区分される債権であります。